

神楽名

うしおだけ 潮嶽神楽

伝承地

潮嶽神社
にちなん きたごう きたかわち しゆくの
日南市北郷町北河内宿野

指定等

未指定

伝承団体

潮嶽神楽保存会

代表 佐師正朗



魚釣り舞

◆ 神楽の概要・由来・その他

潮嶽神楽は、宮崎県南部、日南市北郷町に鎮座する潮嶽神社の春大祭にて伝承されている。日南地方の神楽は、県北部の夜神楽に対し昼間に行われる日神楽であり、稲作の豊穰を祈って奉納されるため「作神楽」や「作祈祷神楽」ともいわれる。

潮嶽神社の創建は不詳であるが、明暦3年（1657）に飢肥藩伊東公の寄進によって再建され、現在の社殿は天保3年（1832）に改修、拝殿は明治32年（1899）に改築された記録が残る。主祭神に火闌降命（別名海幸彦）、その他に彦火火出見命（別名山幸彦）、火明命を祀る全国でも珍しい神社である。海幸彦に借りた釣り針を、山幸彦がなくなしてしまったことで災いが起こった故事にちなみ、古来よりこの地では縫い針の貸し借りを禁じている。

潮嶽神社では神楽以外にも、日南市指定無形民俗文化財の「獅子舞」や、神武東征の前に詠まれた歌に合わせ、里の娘たちが舞ったとされる「御神子舞」など、貴重な民俗芸能が伝承されている。

春大祭当日早朝より、潮嶽神社境内にて社人が山作りを行う。神楽が舞われる清浄な場「神庭」の正面祭壇に、山（標山）が立ち、中央に「キングイ」や「ガイ」とよばれる天蓋が下がる。神庭を結う形で立つ青竹十四本には、神の名が書かれた旗が下がるが、これは日南地方の神楽の独特の設えである。

◆ 芸能の機会・場所

- 潮嶽神楽（春大祭）... 2月11日（建国記念日）

◆ 演目一覧

しんじ
神事

1番：奉者舞

5番：剣舞

9番：三番鬼神舞

13番：鉦舞

かみおく しんじ
神送り神事

みこまい
御神子舞

2番：一番鬼神舞

6番：直舞

10番：御笠舞

14番：手力雄舞

ふくたねお
福種下ろし

3番：繰り下ろし舞

7番：魚釣り舞

11番：御酒上舞

15番：箕取り舞

こうしん ぎ
降神の儀

4番：二番鬼神舞

8番：阿智女舞

12番：御笠鬼神舞

※令和2年（2020）2月11日に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

潮嶽神楽の起源については不明であるが、文化3年（1806）^{うどじんぐうごせんぐう}鵜戸神宮御遷宮にあたり奉納された三十六の番付の記載が『潮嶽神社神事宝典』^{しんじほうてん}に残る。

春大祭では、^{てんそんこうりん}天孫降臨の際に授けられた^{ふくたね}福種の由来を説きながら^{たねもみ}種粃を四方にまく「^{ふくたねお}福種下ろしの神事」が行われた後、神楽が奉納される。

潮嶽神楽は「^{さくかぐら}作神楽」と称されることが多いが、^{わにつかさんろく しゅりょうちたい}鰐塚山麓の狩獵地帯であるため、多くの^{ししがしら}猪頭や、^ご御祭神^{さいじん}に関係し、^{ほうりょうきがん まぐる かつお}豊漁祈願の^{さくきとう}鮪や^{りょうきとう}鰹が奉納される。^{りょうきとう}作祈祷・^{りょうきとう}獵祈祷・^{りょうきとう}漁祈祷の三つの性質を併せ持つ神楽である。

現在は十五番が伝承されている。御祭神に深い関わりが見える「^{うおつ まい}魚釣り舞」では、長い^{しょうぎ}唱儀（歌）の中で^{てんちかいびやく}天地開闢より^{らいれき}海幸彦・^{きりしましんこう}山幸彦の来歴が語られる。歌から^{ほこまい}霧島信仰をうかがわせる「^{さく}鉾舞」「^{あちめまい}鬼神舞」、天の岩戸開きに関する「^{たちからおまい}阿智女舞」「^{みと まい}手力雄舞」があり、豊作祈願の「^{みと まい}箕取り舞」で締めくくられる。

◆ その他の特徴

- 面... 一番鬼神、二番鬼神、^{ちよくまい}直舞、魚釣り舞、阿智女、三番鬼神、御笠鬼神、鉾舞、手力雄 等
- 楽...太鼓、横笛、すり鉦
- 装束... ^{はくい}白衣、^{すおう}白袴、^{じんぼおり}素襖、^{たつづけばかま}陣羽織、^{えぼし}着物、^{けがしら}裁着袴、^{てんかん}烏帽子、^{てんかん}毛頭、^{てんかん}天冠、^{てんかん}白笠 等
- 採り物... ^{たすき}鈴、^{ちよくまい}扇、^{ほこ}御幣、^{おかがみ}鬼神棒、^{ほうじゆ}赤襷、^み刀、^{ちよくまい}直舞道具、^{ほこ}釣り竿、^{おかがみ}鉾、^{ほうじゆ}笹、^み御鏡、^{ほうじゆ}寶珠、^み杵、^み箕 等
- 文書... 『潮嶽神社神事宝典』（大正年間に古文書を書き写したもの） 等
神楽については口伝であり、文書はほとんど残っていない。

◆ 伝承の現状・課題

潮嶽神楽は社人によって舞われており、伝統を守っている自負がある。神楽の保存・継承のための会には参加するが、観光や営利目的のものには参加を遠慮している。神楽は、白衣を着る重みを誇りとする社人によって受け継がれており、将来を見据えて後進の育成に当たっている。

令和3年（2021）3月現在、神楽保存会には社人16名が在籍し、歴史ある神楽の継承に努めている。



直舞



手力雄舞



箕取り舞